

予防接種について

<ロタウイルス>

ロタウイルス胃腸炎とは？

ロタウイルスによって引き起こされる急性の胃腸炎で、乳幼児期(0～6歳頃)にかかりやすい病気です。感染力が強く、ごくわずかなウイルスが体内に入るだけで感染します。ふつう、5歳までにほぼすべての子どもがロタウイルスに感染するといわれています。大人はロタウイルスの感染を何度も経験しているため、ほとんどの場合、軽い症状で済むか症状が出ません。しかし、乳幼児は、激しい症状が出ることが多く、特に初めて感染したときに症状が強く出ます。主な症状は、水のような下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛です。脱水症状がひどくなると点滴が必要となったり、入院が必要になることがあります。5歳までの急性胃腸炎の入院患者のうち、40%～50%前後はロタウイルスが原因です。ロタウイルスワクチンの接種を受けることで重症化予防にも効果があるとされています。

ロタウイルスワクチン

ロタウイルスワクチンは2種類あり、同様の効果があります。2回接種を受けるものと3回接種を受けるものがあります。同じワクチンで決められた回数の接種をしましょう。初回接種については、標準として生後2か月から出生14週6日後までに行います。出生15週0日後以降に初回接種を受けることはおすすめしていません。なお、接種後に吐き出した場合でも再投与は必要ありません。少量でも飲み込んでいれば一定の効果はあることや、ロタウイルスワクチンは複数回接種することになっており、一連の接種で効果が期待できることなどから、吐き出した場合でも1回の接種と考えてください。

***「出生〇週〇日後」とは、出生日の翌日を出生0週1日後として算出した日をあらわします。**

*** 以下のお子さんは、定期予防接種の対象とはなりません。**

- ・過去に腸重積症を発症したことがあるお子さん
- ・先天性消化管障害のあるお子さん(その治療が完了したお子さんを除く)
- ・重症複合免疫不全症の所見が認められるお子さん

ワクチン名	ロタリックス	ロタテック
対象年齢	出生6週0日後から24週0日後まで	出生6週0日後から32週0日後まで
接種回数・間隔	2回接種(27日以上の間隔をあける)	3回接種(27日以上の間隔をあける)

副反応(腸重積症)について

腸重積症とは、腸の一部が隣接する腸管にはまり込む病気です。腸の血流が悪くなることで腸の組織に障害を起こすことがあるため、速やかな治療が必要です。ワクチンの接種に関わらず、生後3か月～2歳くらいまでの赤ちゃんがかかりやすい病気です。ワクチン接種後(特に初回接種後)、1～2週間くらいの間には腸重積症のリスクが通常より高まると報告されています。次のような様子が一つでも見られるときは、医療機関を受診しましょう。

- 突然激しく泣く
- 機嫌が良かったり不機嫌になったりを繰り返す
- 血便がでる
- 嘔吐する
- ぐったりして顔色が悪い